

平成 22 年 4 月 30 日現在

研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19720042  
 研究課題名(和文) 安住院蔵書調査を基盤とする西国文化圏と伝播ルート解明に関する基礎的研究  
 研究課題名(英文) Investigation of Anjuuin-Collection to solve the west cultural sphere

研究代表者  
 中山 一磨 (NAKAYAMA KAZUMARO)  
 大阪大学・大学院文学研究科・招聘研究員  
 研究者番号：10420415

研究成果の概要(和文)：安住院蔵書の悉皆調査を行い、蔵書目録とデジタル画像による複製を作成し、今後資料公開が必要な重要文献の選定を行った。調査に際しては、先ず今後の保存・整理・利用に留意して、保存環境の改善や典籍の種分けを行った。また、関連する近隣寺院の調査も行い、特に金陵山西大寺中興の忠阿上人の実像に迫り、はだか祭りとして有名な会陽の起源に関して新たな知見を提示した。

研究成果の概要(英文)：I investigated all books of Anjuuin-Collection, and made the library catalogue and the reproductions by digital image. Then I chose the important document which I should have shown in future. I improved the preservation method, while being careful to the erosion, the rearranging, and the use in the future. In addition, I investigated related neighborhood temples. I approached the real image of Buddhist monk Cyuua of restoration of Kinryosan-Saidaiji temple in particular. As a result I showed new knowledge about the origin of the EYO that was famous for Hadaka-Festival.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	600,000	3,800,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：中世文学

キーワード：(1) 文献学 (2) 地域文化 (3) 寺院聖教 (4) 文化財保護

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者中山は、多くの寺院調査を行ってきており、中でも京都随心院(科学研究費補助金基盤研究(B)「小野随心院所蔵の文献・画像調査を基盤とする相関的・総合的研

究とその展開」(代表 荒木浩教授/H17～H19)、総本山善通寺(国文学研究資料館文献調査)、の調査に精力的に携わってきた。これらの調査が機縁となって、前善通寺教学部長生駒琢一師の自坊で、随心院・善通寺と

も関係の深い岡山県岡山市の瓶井山禅光寺安住院（以後、安住院と略称）の調査許可を得る事が出来た。

安住院の調査は本科研費申請の前年度から開始しており、当初は典籍の残存状況の視認と保存状況の改善をしつつ、いくつかの貴重典籍の閲覧を行った。そこで明らかとなったのは、所謂諸尊法類のみならず、物語・歌集の写本・古筆切れの一群（鎌倉期多し）や、近隣寺院に関するものも含めた勸進帳や縁起など（南北朝期～）が現存しており、ほとんどが未調査のままであるということであった。今後も他機関による調査予定はなく、また、保管状況も良く無い為、早急なる調査・保存・公表の必要性を感じ、本科研費の申請を行った。

## 2. 研究の目的

西国への文化伝播ルート解明に向けた基幹寺院として、安住院の蔵書典籍悉皆調査を行う。安住院は備前四十八カ寺の一つで、天平勝宝年間に報恩大師により創建され、延喜年間には醍醐寺聖宝、応永年間には与田寺増畔が中興をなし、戦国時代には宇喜多秀家・小早川秀秋、江戸時代には池田光政を初め池田家累代の大名からの庇護を受け、山内に十数ヶ寺の塔頭寺院を存続させ、この地方における真言宗の中心的勢力として栄えた（寺伝による）寺である。既に公となっている典籍では、現東京国立博物館所蔵の『地獄草紙』（国宝）の旧蔵寺院であり、寺内には『中尊寺経』一卷、鎌倉前期写『源氏物語・夕顔』零本などが現存し、近年では増畔の自筆書状が発見されている。しかしながら、圧倒的多数の所蔵文献が未調査で残されており、文明10年（1478）から500年余り奇跡的に焼失を免れて現存している。

本研究では如上の観点から、以下の点を研究目的とする。

(1) 所蔵典籍の目録を作成する。

(2) 研究と保存を目的として、主要典籍のデジタル画像による複製を作成する。

(3) 重要典籍の紹介・研究を行う。

(4) 関連する寺院に調査範囲を広げ、一寺院の研究に止まらない、地域文化の解明と伝播ルートの究明を行い、地域文化圏の再発見と再構築を目指す研究への足がかりを作る。

## 3. 研究の方法

安住院の調査は一回につき3～5日程度の日程で行い、年間のべ20日間程度実施した。

17年度前半は研究協力者や院生有志の協力を得て、安住院のお蔵内部の調査を行い、寺院縁起や古文書類、歴代領主からの寄贈によると思われる古筆切や経巻等、所謂寺宝類の選定と、代々の住僧による書写聖教類の整

理・詰め替えをした。その上で、調査典籍範囲を写本のみを設定し、対象典籍の仮種分けをして、書誌カードが取れる態勢を整えた。

17年度後半から18年度前半は、所謂寺宝類の典籍について、細目書誌を取る作業を行った。これは安住院の重要典籍を認知する為の作業を兼ねており、基本的に中山一人で行った。また、平行して聖教類の略書誌を取りつつ、PC環境設定の協力者と相談しつつ、入力フォームやデータベースの形式の改善を行った。

18年度後半からはアルバイト補助員を一人伴い、聖教類の書誌入力、番号付け、デジタル撮影を1点1点につき順次行った。

また、上記安住院蔵書の悉皆調査の他に、安住院所蔵の仏像・絵画の調査も東洋美術史研究者の手を借りて進めた。更に、関連する寺院として、総本山善通寺・金陵山西大寺・満願寺慈院・勇山寺・木山寺等の調査も随時行った。

## 4. 研究成果

19年度は安住院蔵書の調査として、蔵の中で長年放置されてきた典籍を一点一点取りだし、虫干しとほこり払いをし、新しい箱に外典・内典、版本・写本、印信・聖教などの大まかな区別をしつつ、詰め直す作業を行った。これは、調書取りや整理番号を付していく前段階の作業として、また、大まかに全体を把握する作業として重要であり、且つ典籍の腐食を防ぐ意味も有する。

また、これと平行して、木箱に入れられている等の重要典籍の書誌カード作成とデジタル撮影を順次行った。特に寺伝にかかわるものや、鎌倉期以前の切れ・零本などを優先して調査・撮影しており、そのデータをもとに蔵書の目録化を行った。更に、縁起類の翻刻や、歴代安住院住職の次第などを復元することで、寺院調査で不可欠な寺院史の整備も進めていった。

安住院以外には、随心院・善通寺・正通寺・大山寺・蓮台寺・宝泉寺他多くの寺院を訪問し、古写本の有無の調査や文献の閲覧を行った。特に岡山県下の訪問寺院は10カ所前後にのぼり、この地域の聖教残存の状況の把握に努めた。その中で西大寺に関しては、法会や儀式の面から備中では重要な位置を占める寺院であり、安住院同様に所蔵文献の調査を行った。これらの作業を通して、書物を通じた備中の寺院間交流の解明に資する資料の収集に努めた。

20年度、安住院現地調査はのべ二十日間程行った。上期は主に蔵二階にある貴重書の細目カード作成と撮影を行った。また、金陵山西大寺観音院での聖教調査を行い、書誌・談話の入力、聖教各々の部分的撮影を進めた。

この調査から、西大寺と安住院は法流や組織の上で緊密な関係にある事が判明してきた。備州での文化形成解明の一助となり得ると考えられるが、実証には更なる資料の博捜が必要である。

夏から秋は、善通寺での調査を中心に行った。安住院と善通寺は、現在では隨心院流の寺院として共通するが、残存聖教からすると、両寺院は共に安祥寺流や醍醐寺報恩院流の典籍が多いという特徴が解り、識語には共通する僧名も多い。両寺院は瀬戸内海を挟んで対峙する真言道場であり、自ずとその往来は注目に値する。12月の説話文学会で取り上げた善通寺蔵『真友抄』も元は瀬戸内海の真ん中に位置する塩飽諸島の正覚院にあったもので、備讃地区の真言僧による伝書経路解明に資する典籍と考える。各々の寺院経蔵は点に過ぎないが、丹念に一つ一つの蔵書から得られる情報を集積する事で、それらが線で結ばれて行くのであり、その意味は文化の伝播、文化圏の形成にとっても大きな意味を持つ。

秋以降は、安住院の蔵一階にある聖教類の調査を行った。元は、古びた段ボールに詰めであった聖教を、前年までに虫干しと新しい仮の段ボールへの移し替えをしていたが、本年度はそれを更に、枱形次第書、卷子本、冊子本、印信類、木箱入りの物に分けて、中性紙段ボールに詰め替えた。その上で聖教番号を付加し、外題・内題・表紙情報・装幀などをカード化、及び撮影を行った。また、書誌・撮影の終わったものから、番号を振った葉を挟み込み、整理を行った。更に汚れのひどいものや状態の悪いものの保全にも取り組んでおり、今後の保存と利用を意識した調査を行った。

21年度、安住院調査はアルバイト作業員を一人伴い、予定通り年間20日程度実施した。別置されている重要文献類の細目調査、及び全8函の聖教用中性紙段ボールに詰め替えた聖教類の内、卷子本・全巻揃いの尊法書を除く全体の8割程度の聖教類の仮目録を作成した。目録作成に伴い、全典籍に聖教番号を付した。現在までに調査した総典籍数は細目にして約3000点に及ぶ。また平行して全冊撮影を行い、6割程完了している。これらの成果とデータは未完・未校訂故、寺院内仮目録として電子データとして安住院に寄贈した。

安住院文献と西大寺会陽の関連に注目して始めた西大寺調査は、西大寺会陽の創始者とされている忠阿上人の研究へと発展し、伝承であった満願寺慈院にある忠阿上人の五輪塔の史実性を実証し、満願寺が西大寺の本願所として機能していたこと等、西大寺史や会陽の起源を巡る問題に新たな視点を開いた。本研究は学会でも一定の評価を得、ま

た西大寺会陽500周年と重なったこともあって、地元報道機関でも取り上げられ、地方史研究にも少なからず進展をもたらしたと考える。

その他にも、木山寺では現存聖教の所在確認を行い、勇山寺では中世期の版木類の保護処置を行った。この両寺院では大阪大学東洋美術史の院生の協力を得て、仏像・絵画の調査も行った。また、弘法寺に於いても未調査聖教類の所蔵を確認し、次年度以降の調査許可を戴いた。更に、讃岐地方寺院では、善通寺調査との関連性から、与田寺や塩飽諸島の正覚院について、調査実施の計画を立てている。

以上、3カ年の調査活動を通して、本研究では安住院の蔵書仮目録と撮影データの蓄積を行えた。共に未完・未校訂であるため、寺内保管用として安住院内での公開に止めているが、今後の研究と保存に資する成果としての資料価値は高い。一方で、調査方針として、包紙内の典籍一点一点に子番号・孫番号まで附して、全典籍の書誌を取り、撮影も基本的に全冊撮影を実施した為、全体の二割程の典籍が未調査のままになっている。また、安住院の貴重資料である古筆切等の資料の公表にまでは力が及ばなかった。これらの点については引き続き調査を継続していく。

本研究は安住院の蔵書調査・研究に止まらず、近隣寺院にも調査範囲を広げ、多くの寺院での文献の所蔵確認を行った。中でも、金陵山西大寺観音院においては、中興にして会陽の創始者とされてきた忠阿上人の実像に迫る研究を公開し、県下で注目される場所にもなった。これは単に西大寺のみの問題ではなく、広く備讃地域における熊野信仰の広がりをも照射する課題となる。

また、忠阿のみならず、増伴・蓮体・雲翁など、備讃地域の複数の寺院で足跡を残す僧の活動や、意外に多くの寺院で中世期に遡れる版木が現存していることなど、新たな研究視野も見えつつある。

如上の研究は、本研究が目指す、西国文化圏の文物と伝播ルート解明に関する基礎的研究であり、聖教調査を中心にした分野横断的文化遺産の調査と、相関する地方寺院の総合的研究として、今後も多義に亘って重要度が増す研究であると再確認することができた。また多くの寺院に対して調査にご理解を求めべく文化遺産保護の重要性を説いて回った事や、会陽500周年記念で一般信者の前で講演を行い、それが報道機関にも取り上げられたことで、少なからず文献調査研究への理解が得られたならば、それ自体が保存意識の高揚という成果になりうると考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ①中山一麿、忠阿上人の生涯、詞林、査読無し、47巻、2010、pp.37-49
- ②中山一麿、善通寺蔵『真友抄』の翻刻(前編)、善通寺教学振興会紀要、査読無し、15巻、2010、pp.63-126
- ③中山一麿、金陵山西大寺会陽起源の周縁について—忠阿創始説の背景—、佛教学、査読有り、34巻、2010、pp.84-97
- ④中山一麿、善通寺蔵『真友抄』について—南北朝期高山寺系聞書が映す世相—、説話文学研究、査読有り、44巻、2009、pp.155-167
- ⑤中山一麿、勸進帳と縁起—笠置寺再興事業を通して—、中世文学、査読有り、54巻、2009、pp.73-82
- ⑥中山一麿、『出離の要路』(仮題)の翻刻と出典攷(一)、小野随心院所蔵の文献・図像調査を基盤とする相関的・総合的研究とその展開、査読無し、Vol. III、2008、pp.108-121

[学会発表] (計4件)

- ①中山一麿、金陵山西大寺の会陽と忠阿、佛教学会大会、2009/06/07、仏教大学
- ②中山一麿、善通寺蔵『真友抄』について—南北朝期高山寺系聞書が映す世相—、説話文学会善通寺例会「特集・善通寺の経典・聖教」、2008/12/14、善通寺遍照閣
- ③中山一麿、勸進帳と縁起—笠置寺再興事業を通して—、中世文学会春季大会、2008/06/15、國學院大學
- ④中山一麿、笠置寺の勸進帳と縁起、大阪大学古代中世文学会、2008/04/26、大阪大学
- ⑤中山一麿、随心院の蔵書とその変遷について、国際研究集会 Japanese Buddhism: Beyond Buddhist Studies「日本仏教研究の最前線—仏教学をこえて」、2007/11/03、ハーバード大学ライシャワー研究所

[その他]

- ①中山一麿、会陽の起源と変容—忠阿上人の実像・安住院会陽との関係—、招待講演、会陽500周年記念事業—忠阿上人記念法要並びに顕彰碑除幕式—、西大寺会陽保存会(山陽新聞社他)主催、西大寺観音院共催(於:満願寺)、2010/1/31
- ②中山一麿、デジタル岡山大百科の活用、岡山県『教育時報』、依頼原稿、8月号、2008/8

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中山 一麿 (NAKAYAMA KAZUMARO)

大阪大学・大学院文学研究科・招聘研究員

研究者番号: 10420415